

サッカーとフットサルのゲーム分析
ーサッカーからスムーズにフットサルへ競技変更するためにー

Game analysis of soccer and futsal

-For transitioning a game from soccer smoothly to futsal-

1K08B187-9 前田大地

主査 木村和彦先生 副査 堀野博幸先生

研究目的

サッカーとフットサルでのルールはいろいろな面で違うが、フットサルはサッカーから生まれ競技として成り立っていった。5人制で行われるフットサルはコートも狭く競技人数も少ない。しかし、そのフットサルは1980年代にサッカーと引けを取らない人気となっている。また近年若い人たちの間で人気が急上昇しているフットサルだが、日本ではそのフットサルをはじめの前にサッカーをファーストスポーツとして経験している人が大多数である。またフットサルのプロリーグであるFリーグもでき、これからフットサルはさらに人気を高めていくことが予想される。そこでフットサルのレベルを上げるためにサッカーとフットサルでは何が違い、どのようなプレーがそれぞれにあるのかということを研究し、サッカーからフットサルに競技変更した人がすぐにフットサルに慣れ、スムーズに競技変更ができるようにすることを目的としこの研究を行う。

研究方法

サッカーとフットサルの試合のビデオをそれぞれ見て①トラップ、②かわす方法、③パス、④タッチ数、⑤シュートの5つの観点に注目して、プレーの違いについて比較研究する。対象チームはスペイン代表とスペインのそれぞれトップレベルのクラブチームでおこなう。

研究結果

トラップ技術に関して、サッカーではインサイドでのトラップが多かったがフットサルでは足の裏のトラップがほとんどで全く違うものであった。かわす方法に関して、サッカーではスピードに乗った状態からかわすことが多かったが、フットサルはスピードにのっていない状態からかわすことが多かった。パスに関して、サッカーと比べフットサルは浮き球を使ったパスが明らかに少なかった。タッチ数に関して、サ

ッカーで2タッチは多いものの、1タッチも多かった。それに対しフットサルは2タッチでのプレーがほとんどで、1タッチプレーが考えていたより少なかった。シュートに関してはタッチ数が少ないシュートがどちらも多かった。またヘディングシュートはサッカーでは多々見られたがフットサルにはあまり見られず、フットサルではつま先を使ったシュートが多かった。

考察

サッカーとフットサルではやはりコートが違い、スペースの有無によってプレーの選択が大きくかわっていると考えられる。またボールの弾み具合やシューズの違いから正確さの違いが生まれ、結果で出たようなプレーの選択になったと考えられる。つまりフットサルはサッカーの技術だけでは足りないと考えられる。

まとめ

サッカーからフットサルにスムーズに競技変更する際は、5つの観点のみで考えると、足の裏のトラップ、スピードにのっていない状態からのドリブル、グランダーの正確なパス、2タッチプレーの速さ、フットサルのゲームの組み立て方の動き、ダイレクトシュート、つま先でのシュートに取り組む必要がある。

これからのフットサル

今現在フットサルは競技人口をどんどん増やしフットサルは普及の面では飛躍的に発展してきている。しかし日本のフットサルにはまだまだ手軽さだけを持ち合わせた「遊び」の部分だけが先行しすぎ、競技のレベルの向上というところではまだまだ足りていない。今後フットサルが独自の文化を持ち、単独の競技として確立していくために、指導者養成、地域リーグ充実、全国リーグの充実、フットサル日本代表の強化などを進めていく必要がある。